

男女共同参画に関する意見交換会

令和5年11月29日（火）
14時00分～16時30分
鹿本市民センター2階大会議室

1 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- ・男性のような力仕事はできないイメージ。
- ・祖母と母が家事、育児を行っている。
- ・お風呂も男性が先と決めず、早く入浴できる人からすます。
- ・ゴミ出しはその日、後から家を出る人が持つて出る。
- ・買い物も時間がある人が決められた商品があれば買って帰る。
- ・共働きなのでお互いにできる事を早く帰ってきた方がする。
- ・育児はお母さん、仕事はお父さんと役割がはっきりしていた。
- ・家事は主に女性（お母さん）がしていた。
- ・今は息子も家事をするようになった（30代）。
- ・いつも父親が収入源となる仕事をしており、母親が家事を行っている。
- ・泣いていた時「男だから泣くな」としかられた。

【課題】

- ・男は仕事、女は家事という概念があるように感じる。
- ・普段の分担した役割が任せっきり。家庭内における役割が固定される。
- ・役割が固定される。
- ・自分はしなくても良いと思っているかも・・・？
- ・私が小さい頃は、母が家事の役割になっていた。
- ・男性と女性の仕事上の分別とは。
- ・性により差別が生まれるワケ。

【自分ができること】

- ・男性・女性ともにお互いにわかりにくい。病気、精神的感情を理解しましょう。
- ・男だから、女だからと決めつけない。
- ・将来、家事をするとき、相手のことを考えて自分にできることを見つける。
- ・がんばりすぎないで〇〇は協力してね！と言える自分になりましょう。
- ・仕事上の改革をする。SDGs

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- ・男性の育児休暇、育児休業を取得する人が少ない
- ・そもそもあまり男性が育児をしている場面が想像できない。
- ・あまり（休暇を）もらうイメージはない。
- ・ドラマなどで男性が育児休暇などをとっているところはあまり見ない。
- ・私の会社では男性・女性共育児休暇取得。
- ・上の世代の方たちは、あまりとられてなかったから、若者がとりにくい現状。

【課題】

- 高齢者の育児休業に対する意識改革を進める。
- 女性の出産は命がけという事をまわりの人も理解しよう！
- 育児休暇後のポジションが心配。
- 男性が会社の中で重要な役割を担っていることが多いのも育児休暇を取りにくい原因なのかも？
- 会社のトップの人に子育ての大切さを。

【自分ができること】

- 各職場で育児休業を理解すること、実現できる状況をつくるのが優先。
- 男性が育児休業をとり、何をしたいのか何をしてもらいたいと思われるかを家庭でしっかり話し合う。
- 男性が育児休業を取った後の職場に安心して戻れる環境、ポジションの確保。
- 子育てをみんなで育てていくという意識。
- お互いの子育ての大変さと子育てのよろこび、たのしさも体験しよう！
- まずは理解。数か月休んだりして、元の仕事にもどれなくなる可能性の考慮。
- 男性にも、育児を手伝ってほしいと伝える。
- 安心して戻れるように、自宅でも仕事ができたり、内容がわかるようにする。
- お互いのことを知る。
- これからの若い方達の子育てを楽しんでいただきたい。

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- 育児と仕事の両立が大変そうなイメージがある。
- 出産後、復職しやすい職場としにくい職場がある。
- 女性が育休などで抜けた後、残された穴を埋めるのをどうすればよいのか。
- 社会に出れば就業は基本、当たり前、女性に限らず。
- 仕事についていきにくい。
- 動画で面接の時に「子どもはいるのか」「子どもは何歳か」「育休はとるのか」を聞かれた人がいるということを見た。

【課題】

- 子育て中の女性の場合、子どもの体調によって早退することもあるので、職場の理解も必要。
- 女性の就業・復職の問いの意味は？
- 子育て中、子育て後に働ける環境（保育園や学童の確保）

【自分ができること】

- 一部のことでしょうが、女性だから〇〇できる。〇〇したくないです、ではなく〇〇までは、できますよ！との発言を望む。
- 女性が正職員でフルタイムで働くには家族の協力と理解が必要。
- 復職できる環境であれば働くのは当たり前。
- 休みやすく
- 女性も子育て中でも社会参加として働くことも賛成。

2 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- 子どもの行事で・・・場所取り→父 弁当など→母
- 家事は母が担当
- 食事準備、片付け、掃除、ゴミ出し、資源ゴミ、子ども送迎、病院受診、買物（食材・衣服）虫の駆除
- 昭和10年代の夫なので、保守的で自分の主張を通す。私の子どもたちはよく家事、育児を手伝っている。

【課題】

- 意識かいかくの不足
- 固定的な役割意識
- 育った家庭環境

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- 福利厚生の良い企業に就きたい。
- 育休を取りたい。希望なし。
- 育児休暇を積極的に取りたい。
- 思い込みをなくす。男の仕事、女の仕事。
- 環境を整えてほしい。
- 自分から言い出せないなので、そういう企業が雰囲気を作ってほしい。

【課題】

- 会社の方針、やる気
- 目的を明確に
- 環境整備

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- 復職支援をしてほしい。

【課題】

- 安心して戻れる環境整備
- 男女のそれぞれの意識改革
- 職場、上司の率先した行動と職場の理解が必要。

3 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- 女性が主というのは変わっていない。
- 母がご飯をつくり、父が木を切る（外仕事）。
- 子どもの世話は、父が休みの日はお世話をしていた。（ドライブ・ショッピング）
- 女性が家事や育児をするイメージが大きい。
- 男性は家事や育児をしても「手伝う」感覚でいる。

【課題】

- 男性の勤務時間の長さ
- 家事スキルの違い
- 男性の方がきつい仕事をするというイメージがある。
- 女性は家事育児、男性は仕事のイメージが定着していること。
- 家事は女性が得意というバイアス。
- 家族で役割を決め協力する。

【自分ができること】

- 子どもにも簡単なことはできるように教える。
- ちょっとしたことから手をつけてみる。
- それぞれが得意な家事・育児を分担して、協力して、男女共に仕事と家庭のバランスをとる。
- 家事のスキルを上げる。
- （疲れた）とかではなく、したい、したくないじゃなく協力をする、努力をする。
- 男でも自分から家事をする。

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- 短期なら取った社員もいる。
- 男性が取ると意識は少ない。
- 核家族になったので、育児休暇・休業は必要だと思う。
- 男子が育児休暇しにくい雰囲気がある。
- 男性で育休を気にして、職業を選んでいる人は少ない。
- 男性が育休をとってる人が少ない。

【課題】

- 休暇を取ると収入が減る。
- キャリアがストップする不安がある。
- 会社の育児休暇の体制や理解、社員の理解が必要だと思う。
- 育児休暇が取りにくい雰囲気がある。
- 女性には出産、育児で休まないといけない期間があるけど、男性にはない。
- 男性が育休を取りにくい雰囲気。
- 周囲の理解が得られかの不安。

【自分ができること】

- 誰かが休んでも仕事が続けられる仕組み作り。
- これからの方にとっていいことを伝える。
- 男性の育児休暇を取りやすい雰囲気づくりをする。
- 自分の職場や地域の育児休業について知る。
- 町や行政から育児休暇を取るよう働きかけてもらう、働き方改革の一環で。

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- ・以前よりは男女の区別は少なくなっている（就業について）。
- ・結婚・出産を経ても仕事を続ける社員も増えている。
- ・就業の時に結婚の予定を聞かれたりするところもある。
- ・復職しにくい雰囲気がある。
- ・役職があがると責任感もあり休みを取れない。
- ・業種にもよりますが、復職した時の場所の確保がないこともあるのでは？
- ・時短、リモートを使って復職をしている社員もいる。
- ・昔からしたら、復職しやすい仕組みになってきている。
- ・1回休んだら職場に戻りにくい雰囲気がありそう。

【課題】

- ・休職中、社会から離れる不安。
- ・出産、育児で休みの間のキャリアの空白。
- ・将来のキャリアや計画に対する不安。
- ・結婚や出産の予定があると就業しにくい。
- ・休業したら復業しにくい雰囲気。
- ・本人の気持ちをわかってやる。協力して働きやすくする。
- ・女性の復職についての理解がうすそう。

【自分ができること】

- ・スキルや成果で評価する。
- ・男女の違いについて理解する。
- ・副業や働き方改革について知る。
- ・働き方などを周りに相談する。
- ・復職について理解をする。
- ・働いていたとしたら、精神面で支えてあげる。話を聞いてあげる。

4 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- ・家事は女がする。
- ・母や祖母が中心的に家事を行っている。
- ・基本、父動かない。役割などなく全て母がおこなっている。
- ・男は外仕事や高所作業。
- ・男性の育児休業の実績はない（取ることはOK）
- ・料理は母不在の時は父が行う。
- ・子どもの送迎は仕事が休みの日は夫、それ以外は私が行う。
- ・学校のPTAは母、保育園の役員は父。
- ・洗濯は基本的に父。
- ・母親は夜遊びにいけない。
- ・子どもの病院は平日休みがある父（予防接種など）
- ・授業参観、学校行事は母親が参加。
- ・基本的に母親がおこなっている。父親ができる時は、家事・育児をおこなっている。

【課題】

- ・女性の負担が大きい。
- ・男性が家事、育児を積極的にする。
- ・個人個人の意識。
- ・家事、育児に対する関心がゼロ。
- ・一人に対しての負担が大きい。
- ・シングル家庭だと協力できる人が必要。

【自分ができること】

- ・意識づけ。
- ・お互いに思っていることを伝えるようにする。
- ・上手に誘導する。
- ・役割を決めておく。
- ・「ありがとう」と伝える（わりとやってくれる）
- ・家事、育児は一人でやることができないので助け合いが大事。
- ・特定の人に任せすぎずに話し合って分担して決める。
- ・協力できる人を増やしたい。

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- ・育休中は給料が減るので働いてもらった方が良い。
- ・男性が育児休暇を取るというイメージが広まっていない。
- ・増えてはいるがまだ少ない。
- ・会社の人材不足により、休みを取りづらい。
- ・できたら・・・育休は一人が良い（私は）。
- ・子どもの看病で休む男性職員が多い。
- ・職場では育休を取る男性が増えている（出産～1ヶ月ほど）
- ・会社内で育休を取得している人がいると取りやすい。

【課題】

- ・育休～、産後うつ状態になり、復職まで時間がかかる人がいた。
- ・育児は母親の仕事という意識。
- ・職場の人手不足で休みにくい。・人材不足の改善。・復職後の仕事が山積みしている。

- 男性の育児休暇や育児休業にまったく感心がなくよくわからない。
- 家庭の収入の減少。・給料が減る・昇進に響く
- 育休中の家計の問題。・収入を確保できる制度をつくるべき。

【自分ができること】

- 職場の人が育休を取るときは仕事をみんなでカバーする。
- 「この人しか」できないという立場をつくらないように人材育成をする。
- 積極的に育休が取れる職場の雰囲気作り😊。
- 実際に体験したり人に直接聞いたり、ネットで調べる。
- 女性管理職やベテランの女性職員が反対派の意識を変える。
- 現状について理解する。
- 人手が足りなくても仕事をまわせる工夫をする（日頃から）。

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- 人手不足で育休中の出勤など十分に休みを取れない。
- 女性の方が育休を取る人が多い。
- 復職という言葉は初めて聞いた。
- バイト先では復職しやすい。
- むずかしい。
- 時間に追われている。
- 子どもが小さい間は、パートで働く人が多い。
- 育児がはじまると就業時間や内容を変更しないとイケない。
- 女性の職員が多い（介護施設の特徴）。
- 女性で役職がついている人が多い。
- 育休からほぼ100%復帰する。
- 資格や職歴で復帰をしやすい？
- 育休で1年休んだあと仕事のペースをつかむのに大変。

【課題】

- 育休からの復帰は不安大！！（仕事も家庭も）。
- やっぱり仕事と家事の両立大変。
- 育休後に仕事がたまってしまっている。
- 様々な就業スタイルがあるとよい。
- 子育てサポート体制・子連れ出勤・託児所
- 家族の理解、精神的にも身体的にもきつい。
- 育児負担の軽減。
- 職場に子どもをつれてきてもいい。
- 人材確保。

【自分ができること】

- リモート出勤（勤務）ができる部署は積極的に・・・。
- 女性本人が就業スタイルなど思っていることを聞くようにする。
- 自分がどのようにしたいかを伝えていく。
- 職場で育児ができる環境作り。
- 周囲に相談。頼る（自分も！また相手にとっても）
- 休みの終わりが近くなったら復帰に向けて相談にのる。
- 使える制度を知る。聞く。
- 職場に相談できる体制づくり。
- 理解することが今の自分にできること。
- 職場で定期的に話し合いをして改善していく（生活にあわせて）。

5 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- 女性が家事をする。ご飯はだいたいがお母さん。
- 料理は基本的に女性が行っている。
- 学校行事に参加するのは女性が多い。
- ゴミ捨て、風呂掃除 子どもの歯磨き クラブの送迎 学校の役員
- 子どもの宿題確認 地区の役員
- 夫はあかちゃんのオムツ替えをしていなかった。
- 娘には茶碗洗いをさせ、息子には頼まなかったので、娘から非難されていた。
- 食後、使った食器を洗い場に戻してほしい。

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- 男性はオムツ替えは、小はするが大はしない。どちらもしてほしい。
- 男性も育児休暇を取ってほしい。両親で子どもを見守る、育てる気持ち。
- 取得しているイメージがない。
- 収入が変わらないなら取得したい。
- 休んで何が手伝えるか分からない。
- 自分自身は取っていない。少子化対策にも重要なことだと思う。
- 共働きの家庭が多いため、取得できるならオススメしたい。
- 男性は育児休業などをとっているイメージはなく仕事をしているイメージが強い。
- 会社などで育児休業などが取りにくそうなイメージがある。

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- パートなどが多いイメージがある（育児などがあるから）。
- 仕事の復帰はしやすそうなイメージがある。
- 力がある仕事は選んでいない。
- 家庭の都合上働いてほしい。
- 女性も働きやすい職場、家庭環境が大事だと思う。
- 人材確保が重要。
- 子どもの発熱など緊急の際対応が難しい。
- 保育園の迎えなどで夜遅くまで働けない。
- 休業してフルタイムに戻るのが難しい。
- 周囲も復職を受け入れる。心の広さを持ってほしい。

6 班

第1テーマ「家庭内での家事・育児の役割」について

【現状】

- ・兄弟で何かすることがあれば自分で動く。
- ・家事はほぼ私の担当です。90%くらい？
- ・自分が幼い頃、父が出張が多く、母の家事・育児をしていることが多かった。
- ・朝、洗濯、トイレ掃除、猫のトイレ掃除、工サ、夜、洗濯物取り込み。
- ・育児はだいたい夫と一緒にやりました（自営業だからできた）。
- ・学童保育のアルバイトで、子どもたちの迎えに来る保護者は母親の方が多かった。
- ・育児は終了。オムツ交換はやった。

【課題】

- ・男、女、子どもで役割分担が定まっていると思うので、誰でもできるように協力しながら分担する。
- ・家事・育児についての性別による刷り込み、思い込みが大きいと思う。
- ・パパママ教室のような取り組みに男性が参加しにくい状況にあること。
- ・いなか特有の「男が〇〇するから見苦しい」等の文化がまだ残っている。
- ・「得意な家事をやる」「できる人がやる」と考えれば、家事に対する心理的負担も減るのでは？
- ・男性が休みを取りやすい環境にないこと。男は外、女は内という固定概念がまだ残っていること。
- ・おたがいの得意、不得意があるので理解が必要。
- ・パートナー同士で相互理解できておらず、良かれと思ってやったこともケンカの原因になってしまう。

【自分ができること】

- ・家事で楽しく協力する。
- ・できる人ができる事をする。できなくても責めない。
- ・自分にできる家事は率先してやる。
- ・して欲しい事、して欲しくない事を先に話し合っておく
- ・気を張らずにやってみる。

第2テーマ「男性の育児休暇・育児休業」について

【現状】

- ・シングルファーザーが少ないわけではないので大事だと思います。
- ・自営業なので育休は自由自在に取れた。
- ・子どもの行事にはよく夫婦揃って参加するので「あそこのお父さんってヒマなの？」と言われた。
- ・夜中のミルクやオムツは同じように担当した。お風呂は夫の担当だった。
- ・男性の育児休暇に良く思わない人もいると思う。
- ・男性の育児休暇、育児休業の取得率は低いイメージ。
- ・自分の時は、子どもの入学・卒業式等で休みは取れる環境だった（父親の参加はなかった）。
- ・職員からの育休の申し出はないが取ることはできる。

【課題】

- ・会社によっては、育児休暇・休業があるところ、ないところがあるので増やしていく。
- ・職種によって育休の取りやすさに温度差がある。
- ・金銭的な問題にも関わる。家庭の事情。
- ・育児の大変さを周囲の人も知っていく必要がある。
- ・育児休暇を取りづらい雰囲気がある。
- ・業務内容によって、取りにくさがある。人材不足。
- ・100%の生活費が確保できるか。

【自分ができること】

- ・育児休暇を増やすことを主張する。
- ・育休の周知 男女の賃金格差の解消。
- ・育児休暇について周知していく。
- ・職員が休みを取りやすい環境をつくっていく。協力体制。

第3テーマ「女性の就業・復職」について

【現状】

- ・子どもが多い家庭がある場合は、女性も働かなければならないのでそういうこともある。
- ・独身の頃に働いていた企業は、結婚＝退職でした。賃金は男女で一緒でしたが・・・。
- ・母は出産したあとは仕事へ復職せず専業主婦でした。
- ・就業は問題なくできると思う。
- ・中小企業では産休が取りにくく、退職が多いのでは？
- ・職場で働いていた女性は一人だけでしたが、ご主人と死別されていた人でした。今でもそういう社風のようなのです。
- ・復職について、子どもの病気などで休みを取ることが多いと困難。

【課題】

- ・女性の就業・復職ができない会社があるところ。
- ・復職後のスキル維持研修
- ・病後児保育の充実・拡充。
- ・突発的な休みなどでも気兼ねしない雰囲気づくり（制度）。
- ・復職しやすいような援助や支援がないこと。
- ・子どもの体調管理や保育所の整備。
- ・急な病気の時でも対応してほしい。

【自分ができること】

- ・女性の就業・復職を尊重する。
- ・保育と医療の連携
- ・周りが圧力をかけない。
- ・「子どもが小さいのにもう仕事？」「かわいそう」絶対言わない。
- ・学童保育や放課後保育のボランティア、アルバイトに参加する。
- ・病気、病後での保育施設の整備を増やす。
- ・保育所と医療機関との連携

【6班の発表内容】

家事・育児は女性が行う割合が高い。課題は性別によって役割が固定されていること。できることをできる人がやる。

男性の育児休暇は職種によって取りやすさに差がある。

子どもの急変に対応できない現状があり、医療との連携や病後児保育などの制度の充実が必要なのでは？